

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531141

研究課題名(和文)小・中・高一貫の「伝統的な言語文化」教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究

研究課題名(英文)A study on teaching creativity based on the "traditional language culture" education curriculum of elementary and junior high school and senior high school.

研究代表者

渡辺 春美(Watanabe, Harumi)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号：10320516

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：2008年の学習指導要領の改訂によって、従来の「古典」よりも広い意味を持つ「伝統的な言語文化」の教育が、小学校1年から高等学校3年まで一貫して行われることになった。

「伝統的な言語文化」の教育を効果的にするために、本研究では、学習テーマに基づく教材の開発・編成、学習者に着けるべき読むことの力とその育成、段階的指導過程(基本 応用 発展)に基づいてカリキュラムを作成し、中・高等学校で授業を行い、その有効性を検証した。研究の成果は、報告書「小・中・高一貫の『伝統的な言語文化』教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究」(2015.3.30 全200頁)として公刊した。

研究成果の概要(英文)：Due to revision of curriculum guidelines in 2008, "Traditional languages and cultures" will be studied from 1st grade of elementary school to the 3rd grader of high school. The purpose of this research is to make the study of this subject more efficient. This research includes: (1) Development of teaching materials and editing based on a learning theme. (2) Developing the ability to read and understand classic literature. (3) Curriculum that was made based on a step-by-step training process (basic application advancement). Results of the study were published as the report. The efficiency was proved by classes studied in Junior high school and high school. Results of the study were published as a report (2015.3.30 200 pages).

研究分野：国語教育学

キーワード：伝統的な言語文化 カリキュラム 授業モデル 関係概念

1. 研究開始当初の背景

(1) 「伝統的な言語文化」の学習指導の登場

2008年の小・中学校、2009年の高等学校学習指導要領の改訂によって、伝統的な言語文化の学習指導が重視されるに至った。これは、従来の古典教育の指導内容、対象、方法を、現行教育基本法第二条の五、および学校教育法他による法的根拠、言語文化を、「文化としての言語」、「文化的な言語生活」、「多様な言語芸術や芸能」とすることによる、従来の「古典」概念の拡大、小学校1年生から高等学校3年生まで学習対象を拡大、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に関わらせ、言語活動をとおして指導することによる指導法の拡大と、大きく変えるものであった。

(2) 伝統的な言語文化の教育の課題

従来の古典教育の指導の問題点には、学ぶ意味の実感から遠い訓詁注釈的な形式的学習指導、古語と文法理解を学力の根幹とする素朴な学力観、典型としての古典観に基づく注入型の学習指導、創意工夫に乏しい学習指導、などが見出される。このような現状下、古典教育の拡大ともいべき伝統的な言語文化の教育は、重く切実な課題である。課題の打開と、豊かな教育の展開が厳しく問われている。

(3) 伝統的な言語文化の教育の創造

古典教育の実践と理論的・実践的研究は、下記の通りに継続、集積されてきた。それは、伝統的な言語文化の教育創造の基盤である。

古典教育実践史の研究

戦後の中等古典教育実践は60年を超えて営々と積み重ねられてきた。その中で、時代の古典教育を切り開いた優れた古典教育を掘り起こし、新たな古典教育を創造しようとする史的研究が積み重ねられた。例えば、渡辺春美は、ア・実践史を『源氏物語』、『平家物語』などの作品別実践史の研究、また、イ・問題意識を持って継続的に古典教育を展

開した、岩島 公・伊東武雄・世羅博昭などの個人を対象に古典教育実践个体史の研究をすすめた。その一部は、渡辺春美『戦後における中学校古典学習指導の考究』(2007年 溪水社 全339頁)にまとめられた。

古典教育論の研究

戦後における古典教育論の研究も進められてきた。西尾実・時枝誠記・増淵恒吉・荒木繁・益田勝実・西郷竹彦などの古典教育論の研究も進められた。その研究は、古典観が、典型としての古典観から「関係概念」としての古典観へと展開している点を明らかにした。渡辺春美は、古典教育論研究の一部を、『戦後古典教育論の研究』(溪水社 2004年 全404頁)として刊行した。

古典学習指導の研究

授業活性化を求め、学習者が古典を創造的に読み、古典を学ぶ力を育て、生涯に亘る学び手の育成を目指した授業実践が継続的に試みられた。世羅博昭は目標の二重構造論に基づく実践を提唱した。これらの実践に学び、さらに新たな授業を創造することが求められている。

以上の古典教育の実践的・理論的研究の集積は、新たな伝統的な言語文化の教育のカリキュラムと授業の創造の基盤となって本研究を推進するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)発達段階を踏まえ、これまでの古典教育研究の成果も踏まえ、新しい言語文化観に基づき、段階的に系統化した小・中・高の「伝統的な言語文化の教育カリキュラム」を作成する。ついで、(2)作成したカリキュラムに基づき、研究授業を行い、検証し、その成果を活かし、授業で活用できる具体的な「授業モデル」を提示する。(3)伝統的な言語文化の理論と「カリキュラム」、及び「授業モデル」を小・中・高の学校現場に刊行物などにより公開する。

3. 研究の方法

(1)基礎的研究(1年目) 古典教育のカリキュラムの研究(上述科研)の成果を活かし、「伝統的な言語文化の教育のカリキュラム研究」を行う。そのために、ア.教科書教材の研究ならびに教材の開発、選定、編成の研究、イ.学習のための言語能力の構造的、発達論的研究、ウ.発達段階に応じた目標の研究を行う。カリキュラムに基づき授業実践研究を行う。そのために、伝統的な言語文化の先行実践の研究を行い、指導案を作成し、モデル的授業を行う。

(2)実践的研究(2年目) 指導案に基づき、小・中・高等学校において授業実践を行い、指導案とカリキュラムを検討する。

(3)研究成果のまとめ(3年目) 実践を継続するとともに、授業実践を考察、検討し、実践報告として授業像を提示する。また、カリキュラムを授業によって検証し、修正を加え、提示する。

4. 研究成果

(1)伝統的な言語文化の教育カリキュラム

カリキュラムの作成は、学習者の興味・関心・問題意識をアンケート調査によって把握することを試みた。その結果、ア.自己への関心は高学年になるにつれて高まり、生と死については、小6から中2まで60%を超えている。また、イ.愛と信頼は高学年で高く、他者への責任・償いは全体的に60%の高さを超える関心の高さである、さらに、ウ.貧困・差別や戦争、状況に置かれた人間とその心情などはどの学年でも高くなっている。これらを基にするとともに、これまでの実践も考慮して主題(トピック)を決め、主題をもとにカリキュラムを考えた。また付けるべき学力を措定し、カリキュラムに反映させた。学力は、a.知識、b.技能、c.態度に分け、d.の技能に関しては、「読解力」・「解釈力」・「批評力」から下位の技能を把握し、発達段階に応じて付けるべき技能をカリキュラム

化した。例えば、文学的文章に関する解釈力と批評力は、次の通りである。

【文学的文章の解釈力】a.疑問を見出し、疑問の解決を求めて読む力。b.寓意・象徴・比喩・例示から解釈する力。c.比較・類比・関連・推論・演繹・帰納などの思考力を用いて解釈する力。d.既存の知識や経験を動員して解釈する力。e.空所を補充し、文脈、場面を整える力。f.文脈や場面、語り手の主張等を総合し、人物の思想、性格、心理(変容)をとらえる力。g.主題、要旨を創造的、構成的に把握する力。

【文学的文章の批評力】解釈したことを基に、a.内容的価値、b.表現的価値、c.情意的価値と主体との関わりにおいて価値付け、批評する力。

指導過程は、基本的に、基本 応用 展開と段階的にした。教材の開発・選定・編成は、主題を軸にし、指導過程に応じて行った。例えば、高等学校1年のカリキュラムの主題は、ア.「古典入門 古典を学ぶ意味を求めて」(『宇治拾遺物語』・『徒然草』・『古今和歌集』他)、イ.「武人の心を読む 「馬盗人」(『宇治拾遺物語』)、ウ.「状況と人間」(『平家物語』他)、エ.ものの見方をさぐる『方丈記』・『徒然草』、オ.「『みやび』の世界を歩く」(『伊勢物語』)とし、それぞれについて教材・指導過程・学力に配慮してカリキュラムを作成した。

(2)研究授業

小学校、中学校、高等学校と授業を構想した。中学校・高等学校においては研究授業を実施した。その内の1例として中学校2年における『徒然草』の授業を挙げる。この授業は、人間ウォッチングを単元の主題としている。全4時間の授業である。まず、1時間目の「仁和寺の法師」を教材とした授業において、法師の人間像を追求しながら、エピソード読みの方法、ならびに読みと連動させる新

聞づくりをモデル授業として提示する。ついで、2時間目以降は、その他の6つの教材(「弓射ること」92段、「榎の僧正」45段他)からグループで選択し、エピソード読みを行い、新聞にまとめる。すなわち、基本(一斉学習・「仁和寺の法師」) 応用(グループ学習・6教材から選択)と展開する授業を行った。一定程度、授業方法の有効性を確認することができた。このような方法によって他に、中学校1年、高等学校1年次の研究授業を行っている。授業構想、授業の実際を基に、一部カリキュラムの修正を行った。

(3)研究成果の公表

富安慎吾「漢文テキストを用いた学力評価についての検討」全国大学国語教育学会名古屋大会：口頭発表(2014.5.17)・信木伸一他2名「古典学習における主題単元のテーマの設定『学習者にとっての問題調査』から」(第60回中国四国教育学会：口頭発表、後『教育学研究紀要』第60巻に論稿掲載)・渡辺春美「課題研究発表：国語科カリキュラムの再検討(3)言語文化の観点から古典教育カリキュラムの構想」(第125回全国大学国語教育学会(筑波大学)・筑波大会2014.11.9で発表した。他に、九州国語教育学会・広島大学国語教育学会等で発表した。また、『日本文学』にも成果の一部を基に執筆した。さらに、報告書：「小・中・高一貫の『伝統的な言語文化』教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究」(2015.3.30全199頁)を公刊した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計16件)

渡辺春美、牧本千雅子の古典教育実践の考察、九州国語教育学会紀要、査読有、4巻、2015、pp.138-146

武久康高、活用力を育成する古典授業の開発『平家物語』『扇の的』(中学校2年生)の場合、高知大学教育学部研究報告、査読無、75巻、2015、pp.43-50

信木伸一・渡辺春美・富安慎吾、古典学習における主題単元のテーマの設定「学習者にとっての問題調査」から、教育学研究紀要、査読有、60巻、2015、pp.457-462

渡辺春美、内面化を目指す古典(古文)教育の創造、日本語学、査読無、33、2014、pp.26-36

渡辺春美、古典単元学習の展開 広島大学附属高等学校の場合、九州国語教育学会紀要、査読有、3巻、2014、pp.81-90

渡辺春美、高等学校における古典教育実践の展開 大阪府立高等学校教諭Aの場合、査読無、55巻、2014、pp.11-41

渡辺春美、戦後古典教育論の展開 古典教育の基礎論を求めて、語文と教育の研究、査読無、13巻、2014、pp.1-21

武久康高、『我身にたどる姫君』の麗景殿女御考、高知大学教育学部研究報告、査読無、74巻、2014、pp.1-10

武久康高、児童生徒が郷土文学教材を学習する意義とは何か 土佐の郷土文学教材化試論、国語教育研究、査読無、54巻、2013、pp.23-31

信木伸一、書き手の問いに反応する古典学習(1)『徒然草』『花はさかりに』の場合、論叢国語教育、査読無、9巻、2013、pp.14-22

武久康高、『あきぎり』考『狭衣物語』の引用を軸に、解釈、査読有、59巻9.10号、2013、pp.38-46

渡辺春美、高等学校における古典教育の構想に関する基礎的研究 戦後古典教育実践に基づいて、高知大学教育学部研究報告、査読無、73巻、2013、pp.75-85

渡辺春美、高等学校古典教育の構想『方丈記』『徒然草』を中心に、九州国語教育学会紀要、査読有、2巻、2013、pp.65-74

渡辺春美、高等学校古典教育の構想『大鏡』を中心に、中西一弘先生傘寿記念論集(大阪国語教育研究会 代表：松山雅子 大阪教育大学国語教育講座) 査読無、2012、pp.212-223

富安慎吾、パターンランゲージを用いた国語科授業デザイン研究についての検討、国語教育論叢、査読無、21巻、2012、pp.69-82

武久康高、" 作者 の「心」と出会う、

中学校和歌教材思案 小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開(3) 、論叢国語教育学、査読無、8巻、2012、pp.10-19

〔学会発表〕(計11件)

渡辺春美、国語カリキュラムの再検討(3) 言語文化の観点から 古典教育カリキュラムの構想、全国大学国語教育学会、2014.11.09、筑波大学(茨城県)

渡辺春美、戦後古典教育実践の展開 高等学校における牧本千雅子の場合、九州国語教育学会、2014.09.14、熊本大学(熊本県)

渡辺春美、古典(古文)の読みにおける方略の検討、広島大学国語教育会、2014.08.11、広島大学(広島県)

信木伸一・渡辺春美・富安慎吾、古典学習における主題単元のテーマの設定 「学習者にとっての問題調査」から、中国四国教育学会、2014.11.16、広島大学(広島県)

富安慎吾、漢文テキストを用いた学力評価についての検討、全国大学国語教育学会、2014.05.17、愛知県産業労働センター(愛知県)

渡辺春美、古典単元学習の展開 広島大学附属高等学校の場合、九州国語教育学会、2013.09.14、福岡教育大学(福岡県)

渡辺春美、高等学校における古典学習個体史、広島大学教育学部国語教育学会、広島大学国語教育会、2013.08.11、広島大学(広島県)

武久康高、土佐の郷土文学教材集作成の試み、第4回高知県国語教育実践研究大会、2013.02.16、高知大学(高知県)

渡辺春美、問題意識喚起の文学教育の検討 荒木繁の所論を中心に、全国大学国語教育学会、2012.05.27、筑波大学(茨城県)

渡辺春美、高等学校における古典教育の構想 大鏡を中心に、九州国語教育学会、2012.09.08、長崎大学(長崎県)

渡辺春美、高等学校における古典教育の構想 方丈記・徒然草を中心に、中国四国教育学会、2012.11.11、山口大学(山口県)

〔図書〕(計2件)

渡辺春美・信木伸一・武久康高・富安慎吾 小・中・高一貫の「伝統的な言語文化」教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究、西村謄写堂、2015、p.200

武久康高、「高知の文学」資料集、2013、

p.74

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺春美(WATANABE, Harumi)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号：10320516

(2) 研究分担者

信木伸一(NOBUKI, Shinichi)
尾道市立大学・芸術文化部・教授
研究者番号：40549870

武久康高(TAKEHISA, Yasutaka)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授
研究者番号：70461308
富安慎吾(TOMIYASU, Shingo)
島根大学・教育学部・准教授
研究者番号：40534300

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

島崎敦子(SHIMASAKI, Atsuko)